

首都圏を中心に風疹患者が急増しています！ 感染管理認定看護師 田中まり子

風疹は、風疹ウイルスによっておこる急性の発疹性感染症で、通常は春先から初夏にかけて多く見られます。

国内では、平成25年の大流行を最後に風疹の患者数は減少し、去年は1年間で93人でしたが、今年に入って患者数が急増し、1月から10月までの累計で既に1,692人を数え、去年の18倍を超える流行となっています。11月に入っても首都圏を中心に患者数は増え続けており、埼玉県は東京、千葉、神奈川に次いで多く、国立感染症研究所は「風疹急増に関する緊急情報」を公表し、注意を呼び掛けています。(11月7日時点)

風疹は、患者さんが咳やくしゃみをした際に飛び散った唾液などから感染します。2週間から3週間の潜伏期間の後、発疹、発熱、リンパ節の腫れなどの症状が出ますが、ウイルスに感染しても明らかな症状が出ることがないまま免疫が出来てしまう人も15～30%程度いると言われています。

小児の場合、麻疹(はしか)などに比べてあまり症状は重くありませんが、大人の場合は発疹や発熱が長引き、関節痛などを伴う場合もあります。特に妊娠初期の女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイル

スに感染し、難聴や心疾患、白内障、精神や身体の発達の遅れなどの障害のある赤ちゃんが生まれる可能性があります、それらの障害を「先天性風疹症候群」といいます。

風疹の予防にはワクチン接種が有効です。現在では、1歳と小学校入学前の2回、麻疹と風疹の混合ワクチンの接種が行われていますが、過去にワクチン接種を受けず、感染をしたこともないために抗体を持っていない人が30代後半から50代前半までの成人男性を中心に少なくありません。

妊婦はワクチンの接種を受けられませんので、家族や職場の同僚など周囲の人が接種を行うことで、妊婦に風疹をうつさないことが大切です。市では、妊娠を希望する19歳以上49歳以下の女性と、妊婦の夫で19歳以上の男性に対して、予防接種費用の一部を助成しています。過去に風疹ワクチンを1度しか接種していない人や、風疹の免疫が無い人は、風疹ワクチンの接種を行きましょう。

薬剤師募集中！

市民病院では、薬剤師(常勤)を募集しています。

詳しくは、市民病院のHP又は管理課☎24-6111へ。